

## 第1回山武地区地域協議会 記録

1 日 時 令和5年7月26日(水) 午後3時から4時40分まで

2 場 所 城西国際大学 本部棟8階会議室

3 出席者 17名/20名

### 4 概 要

#### (1) 座長の選出

座長に倉林委員を選出

#### (2) 地域協議会設置の趣旨

地域協議会設置の趣旨について事務局より説明

##### 【座長】

ただいまの説明について、質問や確認事項があれば是非お願いしたいがいかか。特になければ、その都度確認ということで、挙手をいただきたい。

#### (3) 「県立高校改革推進プラン」及び「第1次実施プログラム」について

資料3「県立高校改革推進プラン及び第1次実施プログラムについて」に基づき、同プラン及び同プログラムの内容について事務局より説明

##### 【座長】

事務局からの「プラン」及び「プログラム」の説明について、質問や資料の確認などあればお願いしたいがいかか。特になければ、後ほど全体を通した質疑の時間を設けさせていただく。

#### (4) 山武地区の県立高校の現状と課題

資料4「山武地区地域協議会 基礎資料」に基づき、山武地区の県立高校の現状と課題について事務局より説明

##### 【座長】

事務局から「山武地区の現状と課題」について説明していただいた。全ての地区や高校について説明しきれない所もあったが、資料としてご覧いただく上での要点を説明していただいた箇所もあるが、今の説明内容について、質問やご確認等があればお願いしたい。

これから、委員の皆様にご審議いただくためのプラットフォームとなる資料ということで、今の山武地区の状況ということで情報共有をしていただいた。

#### (5) 質疑

##### 【座長】

本日の議事、地域協議会の設置ということで本協議会の設置の必要な背景を日本全体の観点から説明していただき、それを踏まえた千葉県全体の様子ということで資料3に基づき説明していただいた。さらに千葉県全体を踏まえた上での山武地区の現状と課題について、資料の説明を中心に進めてきた。

これまでの全体について、質問や確認があればお願いしたい。関係の地区や地域、市町の観点からでも結構である。

人口推計というのは、将来の事ながら、ほぼ確実な予測として推計できる数少ない数字と言われている。私も普段の授業の中で学生たちに出来るだけ、自分たちが生きる時代を知っていただきたいと思いを話す。今の20歳前後の人たちが定年を迎えるころ、日本の人口は9,000万人を切っていると予測されている。3,000万人弱減っていく。現状は1億2,400万人程度であるから、4分の1程度減っているのだということを繰り返し話している。人口が減っていくことがどれくらいのメリット、デメリットがあるのか、予測できる部分とできない部分があると思う。それでも、今のドイツよりも人口が多い。今のドイツが8,000万人弱である。ドイツもさらに人口が減り、7,000万人台に入ると予測され

ている。これまで人口大国であった中国も少子化の影響を受けて2060年ころには10%程度、1億3,000万人減少するとされている。つまり、今の日本の人口が全て無くなるような人口減少になるとされている。都市部と経済的に厳しい農村部のそれぞれで人口減少が進んでいくと思う。

一方、もの凄い勢いで増えている国がある。アメリカやカナダ、インドネシアはおそらく3割くらい増えているだろうとか、インドはもっと増えているだろうとか、フィリピンやベトナムもその頃の日本の人口は抜いているだろうという予測もされている。

一世代経つ頃には、ずいぶん様子が変わっていることも推計されている。今の中学生や高校生、大学生の方が生きていく社会をどのように考えていくか、非常に重大で自身に関係がある問題であるという事を私たち自身が意識して、伝えていくべきことを伝えたり、考えていくべきことも明確に示してあげたりすることは、非常に大切なことだと常々思っている。そういった意味で、この協議会で議論いただくことも高等学校単体の問題というよりも、地域の自治体であったり、地域社会に出る子、まちづくり、それをテコにした地域活性化ということ、初等中等教育や私立学校も含めて、総合的な観点から多角的に考えていく必要性もあるし、私たちの責任という所もぜひ委員の皆様からのご意見やお知恵をこの場でいただければと思っている。

#### 【委員】

質問である。資料4の19ページ、生徒の流出入の状況について、傾向として郡部から都市部への流出が多いように感じる。この流出している数が、今後学校の在り方を考える際にどのように捉えられて、この問題をどのようにしていくのか、見通しや方針などがあれば教えていただきたい。

#### 《事務局》

流出の数を少なくする上で考えなければいけないのは、地域の学校が選ばれる学校になるために学びをもっと厚くしたり、地域と連携するなど各学校の魅力化が王道のやり方であると考えている。

#### 【委員】

よく理解できた。ただ、まちづくりをしていくというのは各市町同じであると思うが、人口減少を踏まえた中で、それぞれ持続的なまちづくりが求められている。子どもたちの動きはまちづくりに欠かせない要素である。ぜひとも、我々の学区にも魅力ある高校を創っていただき、都市部から郡部へ呼び込んでいただけるような、魅力的な高校の創り方をお願いしたい。

#### 【委員】

資料3のスライド11番について。私自身が高校生の保護者であり、子どもが高校で学んだことを質問されたりする中で、最近の社会情勢であったり、今後の将来に基づいた学びをしていると感じている。今回、改めて改革の方向性を見て、高校全体の学びが変わってきていると理解した。

7番のところで「地域や企業、教育機関等と連携・協働し、身近な課題解決を考える学びなどの充実」というような具体的な事例として、本学区の各高校において何か実績を挙げている、具体的な学びの成果や連携の事例があれば教えて欲しい。

もう1点。資料3の4ページ、スライド23番。郡部における適正規模・適正配置の考え方について、「生徒募集において著しく困難が生じる場合は、統合も検討する」とあるが、この生徒募集において著しく困難が生じる場合という、具体的な基準を現時点で検討して考えている基準はあるのか。

以上2点、よろしくお願いしたい。

#### 【座長】

1点目の質問についていかがか。

#### 【委員】

松尾高校では、山武市の市民自治支援課が主催する、短期集中英語キャンプと称した英語学習に年2回参加している。県内からALTを招き、山武市の小中学生と一緒に高校生が英語学習を行うといった

取組をしている。

《 事務局 》

東金商業高校が城西国際大学とコラボレーションした取組がある。県教育委員会において、学校提案型魅力発信事業を実施しており、そこに手を挙げた東金商業の取組みである。高校生が留学生を対象にバスツアーを企画し、千葉日報にも取り上げられた。城西国際大学の留学生を対象にバスツアーを開き、インバウンドの効果などについて考える企画であり、2回目のバスツアーも行うと聞いている。

【 座 長 】

2つ目の質問についていかがか。

《 事務局 》

県のプランでは郡部、都市部、それぞれに適正規模というものを設定している。千葉県全体で適正規模を満たしていない数を明確にし、それを自動的に統合すると学校が無くなってしまう。そのようなことをしてしまったのでは、地域が消滅してしまう。これは、とても慎重に考えなければいけないことである。その時の一つの考え方として、地域連携協働校という概念を持ち出している。極端な例えだが、3学級規模で学校を維持しようとしているが、その地域での人口動態を見ると、いずれ子どもがいなくなることが見込まれるのであれば、その学校は維持できなくなることが予測される。今、極端な例を出したが、3学級が2学級に、2学級が1学級となった場合、1学級のまま高等学校として有意義な教育ができるのかといったことにも突き当たると考えられる。2学級や1学級など、現在明確な基準は決めていないが、これを含めていずれご意見をいただければと思っている。

【 委 員 】

承知した。

【 座 長 】

他にいかがか。私から1点確認したいがよろしいか。

普段から感じていた課題・問題として、あるNPO法人が、日本と違うバックグラウンドを持つ家庭の中学生の子どもたちを対象に、高校進学に向けたアドバイザーの機会設定に取り組む活動をテレビで見た。問題は進学の意思決定をする過程において、保護者に対するアクセスをどうするかということ。千葉県全体でもそういった生徒がいると思うが、第6学区特有の問題はあるのか、また千葉県全体において均質的な現象になりつつあるのかといった点に関して、情報があれば教えて欲しいが、いかがか。

《 事務局 》

第6学区が特有で、そのような方々が増えているといった情報は把握してない。しかし、地域協議会の設置の趣旨において、国の問題としてワーキンググループの中でも、日本語を母語としない生徒が増えている状況に対して、何らかの手を打たなければならないことが課題として挙げられていることは承知している。また、実態の一つとして、日本語に課題のある子どもに対し個別の授業を行ったうえで、子どもが保護者との意思疎通の窓口になっている場合もあると多々聞く。今後、学校の在り方を考えていく上で、必ず考えなければならない要素であると認識している。

【 座 長 】

本学にもそういった学生が多く、現在11か国からの学生が在籍している。必要な支援をタイムリーに把握していくためにどうしたら良いかと常々課題として意識していた。日本のこれからのに向けた課題が潜在していた段階から見え始め、様々な対応や支援が必要になっていると感じている。

(5) その他

【 座 長 】

議事の最後にその他とあるが、何か議題等はあるか。

事務局においては、委員の皆様から出た質問に対し、今後の審議に向けて整理の必要があれば整理を

進めていただき、次回の協議会において必要があれば報告してもらいたい。  
以上で進行を事務局にお返りする。